

New

Nogata

2024、6、24

# 直方ミニバスケットボールクラブだより

ミニバス・共育コラム



## 小学校中学年といわれる3・4年生の重要性

### 乗り越えなければならない3・4年生の時期

子どもの成長にとって乳幼児期のおとなのかかわりが最も重要であることは、あらゆる教育研究で明らかにされています。その土台にたって小学校生活があります。小学校の6年間では、1年生入学時と6年生卒業時にスポットライトがあたりがちですが、実は3・4年生の時期の過ごし方がとても重要です。この時期は、発達上の個性や特性が明確になりやすい時期で、学習理解や対人関係（コミュニケーション）などで、本人の意思や努力とは別なところで、うまくいかないことが出始めます。そのことで、自他が傷つくことがよくあり、その後に影響することも少なくありません。自他ともに、できるだけ大きな傷をおうことなく乗り越えることが重要です。そのために、おとなを含むまわりのかかわり（サポート）がとても大切になります。

### 課題は生活・学習習慣

課題は、バスケットのプレーではなく、生活習慣、生活行動、学習に向かう姿勢などです。子どもたちには、常々、「学校や学童保育で友だちや先生を困らせるようなことをしながら、バスケットをすることはできない」と話しています。それは入部時の約束でもあります。とは言いながら、子どものことから、生活上の「失敗」はつきものです。しかし、そのつど「学び」につなげなければ、いつまでたっても同じ失敗を繰り返し、本人の成長につながりません。失敗をすると、どうなるのか—自分で自分の可能性をつぶすことになってしまう—ということを学んでいく子は成長します。自分が変わりたいと思うことができれば、必ず変わることができます。そのためには、自分の強さ（得意なこと）や弱さ（苦手なこと）を自覚し、とりわけ弱さを受け入れることが大切です。そのうえで、自分で変わろうとする努力と、それをサポートしてくれるおとなや友だち（なかま）がいれば、必ず変われます。

3・4年生の男子の多くは、まだ、はちゃめちゃですが、ボールをもってプレーしたくてたまらないという子が多く、積極的に動いているのがとてもいいと思って見えています。なんでもそうですが、やろうとしなければできるようにはなりませんから、この姿勢はとても重要です。ただ課題は、学ぼうとする意識・意欲がどれだけあるかです。意欲のある子は、よく見えていますし、よく聞いています。そして自分でやってみてうまくいかないことも含めて実感し、その繰り返して成功体験を積み重ねながら上達していきます。

女子の多くは、男子のそれに比較すると、どうしてもおとなしめです。今Aチームの高学年の子も含

めてですが、入部するまであまり外遊びをしたことがない子が多いのではないかと思います。ボールを投げ合ったこと、とり合ったこと、けり合ったこと、走り回ったこと、動き回ったこと、あばれ回ったこと、こけたことなどの経験が、ほとんどないのではないのでしょうか。走り方、投げ方、とり方、けり方、こけ方など、身のこなし方が、とてもぎこちなく、特に、こけ方については、瞬間的に手が出ない、体が丸まらない（防御姿勢がとれない）など、本当にあぶないこけ方をすることがあります。こけるときの身のこなしは、「外遊び」の経験を通して、多少の擦り傷、切り傷をおいながら身につけていくもので、教えられて身につけているものではありません。大けがを防ぐために大切な経験です。

### 「子どもの体」心配

子どもたちの心身の発達について、心配なことはほかにもあります。今の子どもたちは骨が弱く、多少の衝撃で骨折しているケースが少なくありません。過去にあったケースで言えば、バスケットボールを普通にキャッチしたら、指を骨折していたというケースがあります。ここまでくると、子どもたちの体が本当に心配になります。

### 「外遊び」大事

子どもにとって「外遊び」は、自分の体を成長・発達させるための重要な学習経験です。「外遊び」によって身につける力は相当量のものがあります。身体的なものはもちろんですが、精神的なもの、頭脳的なものなど多岐にわたります。「外遊び」が激減していることに警鐘が鳴らされ始めたのは、もう20年以上も前になります。子どもたちの体力テスト、運動能力テストの結果が下降の一途をたどり始めていました。同時期に、社会的には子どもをとりまく事件が頻発し、治安の問題がとりざたされるようになりました。ここ10年くらいは、毎年のように異常気象による問題で、子どもたちが外で遊びづらい状況が起きています。人間の生活の変化、それによる自然環境への悪影響が指摘されています。このようなことを背景に、子どもたちの日常的な「外遊び」の習慣は激減し、そのことが子どもの成長・発達（育ちや学び、つながり）に大きな影響を及ぼしていると考えられています。

### 「依存症」の心配

さらに、直接子どもたちの生活に強い影響を及ぼしているのがスマホ等デジタル機器使用の問題です。子どもたちの「スマホ依存」「ゲーム依存」が社会問題化しています。子どもたちの不健全な生活のありようが、本当に危惧されます。今、脳科学の研究は急速に進み始めているようで、これまでわからなかったさまざまなことが明らかにされています。「スマホ依存」が子どもの生活を変え、脳に悪影響を与えてしまうことも明らかにされています。『スマホが学力を破壊する』という著書を出して危険性を訴えている医師もいます。教育先進国と言われるヨーロッパ諸国では、子どもの脳への影響から、学校教育では11歳頃までのデジタル機器の使用を禁止する動きも出始めているそうです。

子どもたちをとりまく環境、子どもたちの生活そのものに気になる点は後を絶ちません。そのことに多少なりとも抗いながら、子どもたちの育ちや学び、つながりをサポートしていきたいと思っています。

「ゲームは好きだったけど、本当にやりたいこと  
だったかという、そういうものではなかった」

「今はあまりしない」

「好きなものに出会えて、本当にしたいものに出  
会えて変わった」

(直方クラブOB)

OB(現在中学生)の声に学びたい。

